

IPBA とは、Inter-Pacific Bar Association（環太平洋法曹協会）の頭文字からなる名称であって、ビジネス・商事法務を専門とする、アジア・太平洋地域に居住する法曹もしくはその地域に高度な関心を持つ法曹が中心となって組織する協会です（IPBA の HP）。IPBA は、歴史上で初めて、日本人弁護士（三宅能生先生）が創立した世界的な法曹協会であり、1990年の創立以来、国内外のメンバーを増やし、現在では、65の国または地域から約1500人からなる組織になっています。なお、弊所代表弁護士の中山は、IPBA の理事をしており、CEO（Chief Entertainment Officer）としても活躍しております。

今回、シンガポールで開かれた IPBA の 2019 年度の年次総会に 3 日間参加させていただきました。その活動について報告いたします。

## 1 開会式

ホテル会場に着くと、豪勢なビュッフェを横に、紳士淑女の海外弁護士の方々が談笑していました。弁護士歴 5 か月目の新米にとって、弁護士界の雲の上の世界を見ているようで、興奮を抑えきれない光景でした。定刻となり式が始まり、最新鋭の技術を使ったダンス披露や、シンガポール首相のリー・シェンロン氏のご挨拶をいただけるなど、刺激的な式となりました。

式の途中で、隣席のインド人弁護士に話しかけられ名刺交換をしました。私が初めての参加ということをお伝えすると、歓迎の言葉と共に、フレンドリーな人たちがばかりだから、たくさん話しかけるのが IPBA の総会を楽しむコツだとのアドバイスをいただきました。これ以降、天上人のように見えていた海外弁護士と交流するハードルが下がり、結果的に 3 日間で名刺交換をした人だけで、100人以上に上りました。彼女との出会いとアドバイスに大変感謝しています。

## 2 セッション

IPBA の総会では、日中は、自分の興味を持った分野のセッションに参加します。IPBA は企業法務系に特化した組織ですので、人権に関するようなセッションはなく、国際取引や税務関係などのセッションが多かったです。私は、経営者の法務に対する心配事や関心事、フェイクニュースでトラブルになった際の対応方法などのセッションを受けました。

正直、セッションの内容の何割を理解できたかと問われると、黙秘権を行使したくなります。聞いたこともない単語や、色々なイントネーションが混ざった英語の議論についていくには、圧倒的に英語力不足を感じました。

### 3 食事会及びパーティー

総会の期間を通して、何度も食事会やパーティーが開かれました。高級ホテルの食事だけあって、出される料理のクオリティは高く、かつビュッフェスタイルなので、常に満腹状態といえるほど料理を楽しみました。

また、夜に行われるパーティーでは、初対面の方ともフランクに話したりダンスをしたりと、多くの方と関われる機会です。とりわけ最終日のパーティーは、貸衣装が提供されてコスプレをしたり、ライブホールでバンド演奏がされたりするなど、エンターテインメント性に富んでいました。

### 4 IPBA 初参加を通して

以上のほか、弊所代表弁護士中山が留学していたシンガポール大学の見学をしたり、第二次世界大戦の戦跡を見たりと、充実した3日間を送ることができました。

世界中の国際弁護士が集まる場にいられたのは、駆け出し弁護士の私にとって、とても刺激的な経験でした。元々国際交流は好きでしたので、臆することなく多くの方と交流できたかなとは思いますが、しかし、そもそもの話の内容の高度さ、英語のボキャブラリーの豊富さに圧倒され、つくづく法律事務の経験の乏しさと英語力の研鑽の必要性を思い知らされました。

私の現在の立ち位置として、世界で活躍する弁護士の仲間入りをするには、法律の知見の深めるといったレベルでなく、一般的な英語力を高めるレベルにあると感じます。今後、日本での仕事を通じて、法律英語等に多く触れるなどして、英語力の向上に努めます。

